認定特定非営利活動法人 レスキューストックヤード

平成 28 年熊本地震 被災者支援

活動報告書

2016 年 4 月 20 日～2017 年 3 月 31 日までの報告

上益城郡御船町

御船町は熊本市から16ｋｍほど東南に位置する町。人口は約１万８千人、面積約99 ㎢、10の小学校区で構成。高齢化率30.9%で、山間部では、60～70%を越す集落もあります。

日本で最初に肉食恐竜の化石が発見された町でもあり、「恐竜博物館」には年間17万人もの観光客が訪れます。

山間部では米や野菜づくりなどの農家が多い一方、小中高大学などの教育機関が充実しているため、熊本市のベッドタウンとして、若い世代も多く住んでいます。

- **震度6強の強い揺れを観測**
- **町内40カ所以上の避難所にピーク時で約6,000人の町民が避難**
- **避難指示108世帯（308名）**

＜人的被害／H29.4月12日現在＞
死者9名（うち関連死8名）、重傷者4名
＜家屋被害／H29.4月12日現在＞
全壊442世帯、大規模半壊419世帯
半壊1,866世帯、一部損壊2,018世帯の住家被害
＜仮設住宅・みなし仮設住宅の入居戸数／H29.3月31日現在＞
仮設住宅21箇所・425戸が建設され、416戸に入居
みなし仮設*は、町内159世帯、町外219世帯が入居

イメージキャラクター
ふねまるくん

＊みなし仮設:民間住宅を国や自治体が借り上げて、仮設住宅の代わりとして被災者に提供したり、公営住宅や雇用促進住宅、被災者が自力で借りた賃貸住宅も仮設住宅とみなしたりした住宅を総称して「みなし仮設」とし、家賃などを国が負担している。

活動記録

2016 年

4/15　浦野・松永が現地入り（福岡経由で大津町へ）

4/16　浦野・松永が大津町のホテルで震度 6 強の被災、一旦名古屋へ帰還

4/16～17　名古屋にて街頭募金活動

4/20　浦野・松永はボランティア 1 名と再び現地入り

4/21　大分県竹田市、熊本県西原村、御船町を経由して熊本市西区「光楽寺」へ到着（5 月 1 日まで滞在）

4/23　西原村にて災害ボランティアセンター運営支援・JVOAD 火の国会議（以降毎日開催）・「RSY 避難所チーム」結成・御船町にて活動開始、第 1 回街頭募金（名古屋）

4/23～24　名古屋にて街頭募金活動

4/25　御船町長・総務課・福祉課と面談、福祉課「救護班」のミーティング参加、各避難所にて足湯ボランティア開始

4/29　御船町災害ボランティアセンター開設、RSY 避難所チームを『ニーズ班・福祉チーム』として位置づけ

4/29～5/1　名古屋にて街頭募金活動

5/1　田代東部公民館にて「ミニ昼食会」、御船中学校にて「子どもの遊び場」、小坂小避難所にて「足湯ボランティア」開催、福祉避難所の環境改善実施

5/2～4 玉虫住宅南公民館にて「ミニ昼食会」、御船小中学校避難所などで「子どもの遊び場」、「足湯ボランティア」開催、光楽寺にて「炊き出し」開催

5/3～5　名古屋にて街頭募金活動

5/6　小坂小避難所にて日本災害復興学会「これからの生活再建を考えるミニ相談会」実施

5/8　JVOAD 熊本市内 180 箇所の避難所を 21 箇所に集約、熊本市総合体育館での受入支援、御船町にて「母の日プロジェクト」実施

5/9　地元ボランティア団体らと御船中で「サロン活動」開始

5/14～15　玉虫住宅南公民館、田代東部公民館にて、日本災害復興学会「これからの生活再建を考えるミニ相談会」実施

5/16　田代東部公民館にて「ミニ昼食会」の開催

5/21　熊本市市民活動支援センター・あいぽーとにて「足湯講習会」実施

5/21～22　青雲市場にて「炊き出しバイキング＆カフェ」開催、ふれあい広場にて「LUSH ハンドマッサージ」開催（以降各避難所で毎週末開催）

5/23　御船中にて「手洗いチェック・布団干し」実施

5/29　あいぽーとにて「熊本地震災害支援説明会」開催（以降、地元ボランティアの足湯ボランティア、サロン活動などをサポート）

6/1　南田代集会所にて日本災害復興学会「これからの生活再建を考えるミニ相談会」実施

6/6～10　御船町スポーツセンターへの避難所集約受入支援、「雑巾づくりの会」開催

6/8　熊本市南区火の君文化センターにて「布団干しプロジェクト」開催

6/8　名古屋にて街頭募金活動

6/14～15　スポーツセンター、南田代公民館にて「炊き出し交流会」開催

6/16～17　スポーツセンター、南田代集会所、福祉避難所にて「胡弓演奏会」開催

6/18　応急仮設住宅入居者説明会（第一次募集）にて「仮設の住まい方」説明

6/23　大口町倉庫にて「あったか味噌汁プロジェクト」パック化作業（初回）

6/26　スポーツセンターにて「足湯ボランティア」実施

6/27　高木・木倉・旧七滝中仮設住宅へ「あったか味噌汁プロジェクト」のお椀＆箸セットお届けスタート

6/28　スポーツセンター、玉虫住宅南公民館にて「サロン活動」実施

7/5　RSY 御船事務所「かたらんな交流館」オープン

7/7　大口町倉庫にてあったか味噌汁プロジェクトパック化作業

7/14　応急仮設住宅入居者説明会（第二次募集／七滝）にて「仮設の住まい方」説明、スポーツセンターメモリアルイベント参加

7/19　スポーツセンターにて「お抹茶＆手作り教室」開催（災害ボランティアネット九州支部「てらもん」と合同）

7/21　応急仮設住宅入居者説明会にて「仮設の住まい方」説明（ふれあい第 1）

7/23　「くまもと災害ボランティアネットワーク設立実行委員会」シンポジウム参加

7/24　足湯（玉虫住宅南組団地）実施。12 名が参加（神戸大学足湯隊と連携）

7/29　スポーツセンターにて「お抹茶＆手作り教室」開催（災害ボランティアネット九州支部「てらもん」と連携）

7/29　大口町倉庫にてあったか味噌汁プロジェクトパック化作業

8/3～4　大口町倉庫にてあったか味噌汁プロジェクトパック化作業

8/4　町主催「御船町第 1 回被災者支援担当者会議」参加

8/8～10　旧七滝・高木談話室にて「穴水・御船交流会」開催。総勢約 20 名参加。陣・木倉仮設住宅、商店街、スポーツセンターなどで手作り手拭タオル「ホットちゃん」を配布。御船町社協にて「穴水＆田代・木倉地区社協交流勉強会」開催。24 名参加（穴水町社協、穴水町ボランティア連絡協議会と連携）

8/11　旧七滝仮設談話室にて「RSY カフェ」開催。4 名参加（「はり灸レンジャー」と連携）

8/13　かたらんな交流館にて「陶器市＆RSY カフェ」開催。6 名参加

8/14　スポーツセンター主催「熊本地震メモリアルイベント」参加

8/19　障がい者福祉施設「第二明星学園田代西部センター」にて「音楽会」開催（「NPO 法人夢のはな奏であい」と連携）。50 名参加

8/19～21　RSY 熊本地震夏祭り応援交流ボランティアバスを運行。スポーツセンターにて「真夏の夏祭り」支援、南田代公民館にて「住民夏祭り交流会」開催、町内観光の後名古屋へ出発。祭りには総勢約 400 名が参加

8/20　仮設住宅入居者説明会にて「仮設の住まい方」説明（ふれあい第 2、高木第 2、下高野）

8/26～27　大口町倉庫にて「うるうるパック」パック化作業

8/27　かたらんな交流館にて「陶器市＆RSY カフェ」開催。約 20 名参加

9/1　仮設住宅入居者説明会にて「仮設の住まい方」説明（東小坂、田代東部、七滝、玉虫）

9/6　仮設住宅入居者説明会にて「仮設の住まい方」説明（甘木）

9/8　旧七滝中談話室にて「福島・御船交流会」開催（桜の聖母短期大学と合同）8 名参加

9/10　大口町倉庫にて味噌汁プロジェクトパック化作業

9/9～12　スポーツセンター、高木・旧七滝・ボランティアセンターにて「住宅再建に関する相談会」開催（(株）サイドサポートサービス「おうちの相談屋本舗」と合同）。総勢約 20 名参加

9/16　町主催「御船町第 2 回被災者支援担当者会議」参加、仮設住宅入居者説明会にて「仮設の住まい方」説明（滝川）

9/17　かたらんな交流館にて「陶器市＆RSY カフェ」開催。約 60 名が参加

9/20　大口町倉庫にて「うるうるパック」パック化作業

9/22　仮設住宅入居者説明会にて「仮設の住まい方」説明（南木倉）

9/25　御船町復興まつり「感動祭」準備支援（トヨタボランティアセンターと連携）

9/27　木倉公民館にて「陶器市＆RSY カフェ」開催。約 50 名参加

9/28　ふれあい第 1・2 談話室にて「あったか味噌汁プロジェクト昼食会」開催。約 30 名参加。町主催「第 1 回応急仮設住宅自治会づくり会議」参加。

10/2　ふれあい第 1・2 談話室にて「なごやカフェ」開催。（名古屋学院大学と連携）。約 20 名参加、御船町復興まつり「感動祭」準備支援（TOYOYA ボランティアセンターと連携）

10/4　仮設住宅入居者説明会にて「仮設の住まい方」説明（空室分）

10/8　高木仮設にて「自治会づくり住民会議」に参加

10/10　大口町倉庫にて「うるうるパック」パック化作業

10/11　御船町社協「地域支えあいセンター開所式」参加

10/13　町主催「御船町第 3 回被災者支援担当者会議」「第 2 回応急仮設住宅自治会づくり会議」参加、応急仮設入居者説明会にて「仮設の住まい方」説明（西木倉）

10/15～16　御船町復興まつり「感動祭」準備支援（大分大学学生有志と連携）

10/17　町主催「復興計画住民座談会」参加（田代東部公民館）

10/19　スポーツセンター、南田代公民館にて「炊き出し交流会」開催。260 食提供（災害ボランティアネットと連携）

10/21　町主催「第 3 回応急仮設住宅自治会づくり会議」参加

10/22～24　今城、小坂、ふれあい第 1・2、高木、南木倉仮設にて「足湯＆RSY カフェ開催」40 名参加。

10/23　大口町倉庫にてうるうるパックパック化作業

10/26　ふれあい第 1 仮設にて「自治会づくり住民会議」に参加

10/28　町主催「御船町第 4 回被災者支援担当者会議」、ふれあい第 2 仮設にて「自治会づくり住民会議」に参加

10/29　木倉校区見守りネットワーク推進会議「災害後の生活支援についての勉強会」講演・WS の企画運営

10/30　小坂・旧七滝仮設にて「下駄箱づくり＆RSY カフェ」を開催（プロジェクト九州と連携）

11/16　仮設住宅入居者説明会にて「仮設の住まい方」説明（落合）

11/17　町主催「御船町第 4 回被災者支援担当者会議」参加

11/21　小坂仮設にて「自治会づくり住民会議」に参加

12/2　震災がつなぐ全国ネットワーク（震つな）「復興寺子屋 in 御船・仮設での自治会づくり」開催

12/5　高木地区、小坂仮設にて「アーユス仏教国際協力ネットワーク」との交流会サポート

12/15　下高野第 2 仮設にて「自治会づくり住民会議」に参加

12/23　小坂仮設にて「陶器市」開催。約 50 名参加

12/24　今城仮設にて「陶器市」開催。約 30 名参加

12/25　南木倉仮設・西木倉仮設にて「陶器市」開催。約 50 名参加

12/26　町主催「御船町第 5 回被災者支援担当者会議」参加

2017 年　1/19　南田代・高木地区、今城・落合仮設にて「真宗大谷派ボランティア研修・餅つき＆お念珠づくり交流会」開催。約 80 名参加。

1/27　震つな主催で「情報交換会・みなし仮設への支援を考える」を開催

2/22　震つな主催で「復興寺子屋 in 御船・親子支援つながりカフェ」を開催

3/23　震つな主催で「情報交換会・みなし仮設への支援を考える」を開催

●避難所支援　RSY 避難所チーム（避難所環境整備）

命と尊厳を守れる最低限度の避難所環境を整えることを目的に、御船町や熊本市からの要請を受け「避難所チーム」を結成しました。RSY と繋がりのある看護や福祉の専門職の皆さんに協力頂き、トイレ・寝床・食事の改善、福祉避難所(スペース)の整備を行いました。特に避難所統合の際には、乳幼児室、管理調理場、女性用物干しスペース、学習スペース、食堂などの機能の必要性も提案し、受け入れを手伝いました。

足湯ボランティア

どの災害でも直後から復興期まで息長く喜ばれる足湯ボランティア。御船町や熊本市内の避難所で実施しました。神戸大学、名古屋学院大学の学生や、東日本大震災で生まれた「どこでも足湯隊」の皆さんが、被災された方々の足と心を温め、笑顔や涙、喜びの声を引き出しています。この活動は、地元大分大学やボランティア・NPO 団体らに引き継がれ、継続されています。

サロン活動支援

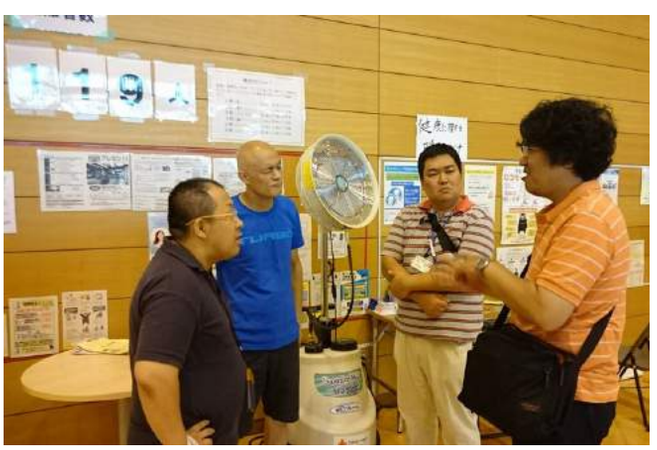
「日中することがない」「避難所に来てから体の動きが悪くなった」というお年寄りの声を聞き、震災前から地元でサロンを開催していたボランティアの皆さんと一緒に活動を行いました。この活動は避難所が統合されるまで、週に 2 回～3 回のペースで続け、被災者同士、被災者とボランティアを繋ぐ交流の場・拠り所となりました。LUSH ジャパンのハンドマッサージや音つむぎネットの音楽会とのコラボレーションは喜ばれました。

子ども支援

学校休校や激しい揺れ、避難所生活のストレスを抱えた子ども達のために、遊び場を提供しました。地元の若者で結成された「笑顔の熊本会」や三重県からの個人ボランティアの皆さんらが、けん玉やボール遊びなどの楽しい企画を開催しました。仲良くなるにつれて「抱っこ」や「おんぶ」をせがむ姿も見られ、子どもの表情も明るくなってきました。この活動は、日本イスラエド・サポート・プログラム（JISP）の皆さんに引継ぎました。

避難所の自主運営・役割づくり・閉鎖サポート

6月上旬、御船町スポーツセンターへの避難所統合を機に、町からの依頼により、熊本YMCA（施設管理者）や熊本大学の方々と自主運営に関するルールづくりを行いました。約200世帯の避難所を6つの班に分け、「班長」「食事係」「ゴミ係」「清掃係」「物資・健康係」と担当を決め、住民自身が運営していけるよう、避難所のレイアウト、係決めのワークショップなどのお手伝いをしました。また、NPO法人災害ボランティアネット九州支部「てらもん」さんらとの連携のもと、集いの場や役割づくりのために、サロンや物づくりのプログラムも実施しました。10月31日の閉鎖まで、在宅や仮設住宅移行時にお手伝いや相談が必要な方については、町や熊本YMCAと連携し、個別支援をお手伝いしました。



●集落支援　陶器市＆RSY カフェの開催

愛知県瀬戸市「陶磁器卸業協同組合」様、岐阜県瑞浪市陶町様から食器類をご提供頂き、陶器市を開催しました。陶器市は、地震で割れてしまった食器の調達はもちろんのこと、近所の方との再会や、ゆっくり語り合える場としても活用されています。気兼ねなく気に入ったものを持ち帰れるよう配慮し、陶器は１つ 10 円程度で販売しました。売り上げは全て御船町社協に寄付しています。買い物をする楽しみや気分転換にも繋がっているようで、大変喜ばれています。陶器市は大変好評だったため応急仮設住宅でも開催しました。

交流会の開催（上野地区・高木地区）

南田代公民館のある上野地区は、山間部で家屋倒壊も少なく、外部からの支援はあまり入っていない地域でした。しかし、家屋内や農地被害はひどく、「支援から取り残されているように感じる」という声を聞きました。一方で、高木地区は倒壊家屋が集中していました。そこで、RSY と繋がりのある音つむぎネットや NPO 法人災害ボランティアネット、真宗大谷派ボランティアの皆さんらとのサロン活動や食事会をきっかけに交流を深めました。「今度はいつ来ると？」と住民の方々も次の新たな出会いや再会を楽しみにしています。

車座トーク「これからの生活再建を考えるミニ相談会」

今後の生活再建に向けて不安を抱える住民の声をもとに、日本災害復興学会の協力のもと「車座トーク」を開催しました。学会より、過去の災害を事例から応急危険度判定、り災証明、今後受けられる支援制度などについて解説いただき不安軽減に繋がりました。また、2004 年新潟県中越地震で家屋全壊、田んぼの被害を受けた田麦山の渡辺裕伸さんをゲストに迎え、応急仮設住宅の住まい方や生活再建に向けた取り組みの事例を教えて頂きました。車座トークは計 5 回実施、約 100 名が参加しました。

●応急仮設住宅支援　仮設での暮らし方の伝授

応急仮設住宅での暮らしに大きな不安を抱える被災者に向け、町主催の仮設住宅入居者説明会で、「仮設の住まい方、暮らし方」を紹介。過去の災害の事例を元に、狭い空間を有効活用したレイアウトや収納の選び方などを具体的に伝授。新潟県中越地震や東日本大震災の被災者からの「引きこもらずになるべく外に出ること」「近所づきあいを大切に」というメッセージを伝えると、熱心にうなずく姿が印象的でした。なお、2016 年 11 月中旬までに、21 箇所・425 戸の仮設住宅が建設されました。

あったか味噌汁プロジェクト

応急仮設住宅にお住まいの皆さんに、真心がいっぱいつまった味噌汁椀と箸のセットを届ける「あったか味噌汁プロジェクト」。仮設住宅での孤独死や健康被害、熊本地震の風化防止を目的としています。受け取った住民からは、「昨日さっそくこれで味噌汁を食べました」「遠くから気にかけてくれることが本当に嬉しい」と、満面の笑顔と喜びの声が聞かれています。お椀とお箸は全て全国からの寄付によるもので、ラッピング作業は愛知のボランティアさんが担ってくれました。集会場や談話室が開放される時期を見計らって、熊本の郷土料理「だご汁」昼食会を開催。プレゼントしたお椀とお箸を家から持参して、みんなで楽しく調理しました。「今度部屋に遊びにいくたい！」と、次の約束をする方もいて、新たな人の関わりを育くむきっかけにもなっています。皆さんのご協力で、1,026 人の方にお渡しすることができました。

集会場・談話室の整備

町の仮設住宅には、1 箇所の集会場（50 戸に 1 つ）と 10 箇所の談話室（20 戸に 1 つ）が建設されましたが、災害救助法で提供されるのは建物のみで、備品は準備されていませんでした。そこで、RSY への寄付金や NPO 法人マンパワー・カフェ、生活協同組合連合会アイチョイス様のご協力により、テーブル・椅子・お茶のみセット、簡易調理セット、掛け時計、テレビ台、モノづくりのための工具などを提供。靴箱づくりや食事会など、住民が集える場づくりプログラムのために使われています。

足湯＆RSY カフェ

仮設住宅入居後も根強い人気の足湯。東日本大震災でも活躍した、「どこでも足湯隊」や「神戸大学足湯隊」などが、住民の足と心を温めました。足湯を通して、震災直後の様子や健康状態、家族や隣近所のことなど、どんどん言葉が溢れ出てきます。行政や専門家の対応が必要なケースはすぐに繋ぎ、そうでなければただひたすら、皆さんの話に耳を傾けます。「久しぶりに話せてすっきりしたたい」「また来てね」など、次を楽しみに待つ言葉が、随所で聞かれました。

郷土料理・名物おやつ交流会

福島や名古屋の学生さんたちが、郷土料理を一緒に作って食べる交流会を開催しました。名古屋からは「ういろう」、福島からは「こづゆ（汁物）」というレシピと共に紹介。住民の皆さんも興味津々で一緒に作って下さいました。学生さんたちの中には、「今度は熊本の料理を教えて下さい」と次の約束を取り付ける人も。一つの出会いが、土地への興味と互いへの関わりをより一層深めてくれました。

建築士による住宅修繕相談会

過去の災害では、家主が家の解体や修繕などについて正しい判断ができず、解体する必要がない家屋を解体してしまったり、悪徳業者に騙されて、多額の費用を請求されるなどのトラブルが数多くありました。（株）サイドサポートサービス「おうちの相談屋本舗」主宰の中原弘之氏を招き、4 箇所で相談会を開くと共に、実際に建物を見てアドバイスをする個別訪問も行いました。住民からは「再建に向けてすべきことがはっきりした」と、安心した表情が見られました。

復興祭りへの支援

町民が主体となり、復興祭り「感動祭」が開催されました。RSY は、事前準備や広報などを支援しました。当日は各地から 2,000 名を越す人々が来町し、御船川河川敷にて、よさこいを披露するなど、大いに盛り上がりました。

地元ボランティア団体への支援

2007 年 3 月 25 日・能登半島地震で震度 6 強の被害を受けた穴水町より 5 名が訪問し、手作りのベビードレス型手拭タオル「ホットちゃん」400 枚を届けて下さいました。また、旧七滝・高木仮設団地の談話室での交流会や、木倉・田代東部地区の地区社協の方々を対象にした勉強会にも参加頂きました。住民の中には、ホットちゃんを手にした瞬間、込められたまごころを感じて涙を見せる方も。「過去の経験を聞くことで、改めて地域が頑張らなくてはと力が沸いた」というコメントが寄せられ、被災地と被災地を繋ぐ心の絆も深まりました。

町・社協・地元関係機関との情報共有

町の総務課・福祉課、地域支えあいセンター（社協）、熊本 YMCA、熊本大学、くまもと健康支援研究所らと共に、2 週間に 1 回程度の「支援担当者会議」に参加し、避難所や仮設住宅入居者の個別支援計画づくりや課題の共有、支援プログラムの検討を行っています。

RSY 御船事務所「かたらんな交流館」の運営

7 月 5 日～12 月末まで、RSY の御船事務所として、「かたらんな交流館」を設置しました。「かたらんな」とは、地元の方言で、『一緒に』とか『語る』という意味合いがあります。中西朝子さん、浦中武信さんの 2 名を常駐スタッフに迎え、被災者とボランティアの出会いや交流の場所として活用されました。かたらんな交流館の運営とスタッフの常駐は 2016 年 12 月末で終了しました。

ボランティアバスの運行

「地震の影響で夏祭りも中止になってしまった。何も楽しめるものがない」「こんな時こそ元気の出ることをやりたい」という住民さんの声を受け、熊本 YMCA や山間部の自治会の方々と準備を進めてきた夏祭りが 7 月 20、21 日に開催されました。RSY は「夏祭り応援交流ボランティアバス」を運行し、名古屋から 30 名のボランティアが活動しました。RSY は陶器市、輪投げ、釣りぼり、たませんブースの運営や、住民企画の流し素麺のサポート等を行い、どのブースも常に賑わっており、袋一杯の陶器を購入された方、たませんや素麺に舌鼓を打つ方、輪投げ、釣りぼりを楽しむ姿が多くみられました。

全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）

支援の抜け、落ち、漏れ、ムラや重複を防ぎ、地域のニーズにあった支援活動を促進するため、熊本県内の支援団体・被災地全般の情報集約・調整機能を果たすべく現地で活動。県総合福祉センター内に本部を構え(8 月までは県庁内)、事務局は JVOAD(ピースボートボランティア・RSY を含む)と地元の中間支援 NPO・NPO くまもとで共同運営しています。週一回、支援団体を集めた「火の国会議」、行政・社協と「連携会議」を開催。情報共有と次の支援に向けた調整を行い、その後は、くまもと災害ボランティア団体ネットワーク（KVOAD）に引継ぎました。

災害ボランティア活動支援プロジェクト会議（支援Ｐ）

避難所から応急仮設住宅やみなし仮設住宅等へ引っ越した一人ひとりに、暮らしの状況についてお聞きするコミュニケーションツールとして、「うるうるパック」をお届けしました。

RSY 大口町倉庫を拠点とし、名古屋のボランティアだけでなく、大口町で活動している団体「災害救援ボランティア」の協力もあり、延べ 94 名がパック化作業に参加。3050 パックを作成し、御船町を始めとした、7 市町村にお届けしました。

震災がつなぐ全国ネットワーク（震つな）

震つなでは、熊本県内で活動する支援団体や、地元自治体、地域支え合いセンター、住民に向けて、「情報交換会」や「復興寺子屋」を開催しています。RSY が現在も支援を続けている宮城県七ヶ浜町からは、元仮設住宅代表世話人の星仁さんを招いて、仮設での自治会運営やコミュニティの作り方についてお話頂きました。また、親子向けには、新潟県中越地震で被災経験のある長岡市のママたちとの交流を深め、不安の共有や励ましの機会となりました。

浄土真宗大谷派「光楽寺」様の協力

車中泊用簡易ベッド「ねむれーる」開発者でもある大津山量住職

RSY 会員で真宗大谷派「光楽寺」のご住職、大津山様のご好意で、4 月 20 日から 5 月 1 日まで、本堂を宿泊所として開放頂きました。幸い、ライフラインの復旧が早かったことから、お風呂の世話や、ゴミの処理、物資の保管・車の駐車スペースの提供など、一手に引き受けてくださり、安全で快適な宿泊空間が確保できました。ご住職、ご家族の協力なくして、これほど早く、現地での活動を展開することはできませんでした。この場をお借りして心からお礼申し上げます。5 月 4 日、感謝の気持ちを込めて、ご住職と一緒にお寺の周辺地域の方々に炊き出しを振舞いました。

認定特定非営利活動法人 レスキューストックヤード

平成 28 年度熊本地震　被災者支援

活動報告書

2016 年 4 月 20 日～2017 年 3 月 31 日までの報告

2017 年 4 月 14 日発行
認定特定非営利活動法人レスキューストックヤード(RSY)

（名古屋事務所）
〒461-0001
名古屋市東区泉 1-13-34 名建協 2 階
tel 052-253-7550　**fax** 052-253-7552

e-mail info@rsy-nagoya.com
web http://rsy-nagoya.com/
twitter rescuestockyard
facebook rsy.nagoya